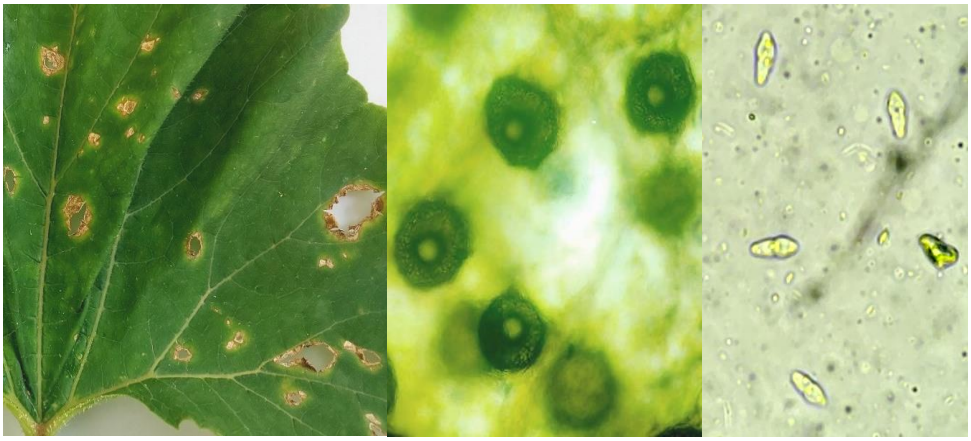
～防除室だより vol.75～

病害虫防除室
2025 年 7 月 2 日

夏季に発生するカボチャ葉の病害



１．カボチャ黒斑病

灰褐色円形病斑を形成し、すす状のカビ（分生子）を生じます。アルタナリア属の中でも大型の分生子で、ビーク（分生子先端の伸長部）はヒモ状で分生子本体より長く伸びているのが特徴です。

２．カボチャつる枯病

淡褐色病斑、中心部は破れやすいのが特徴です。病斑周囲には退緑部が見られます。病斑上には球形の偽子のう殻が形成されています。子のう胞子は２細胞、隔壁部でややくびれる紡錘形です。貯蔵中の果実腐敗の原因にもなります。

３．カボチャ白斑病

主に葉柄、葉脈に灰白色カスリ状の病斑を生じ、葉面には微小な病斑を散生します。病斑上に長楕円形・無色・２細胞の分生子を形成します。果実には白色、小隆起状の病斑を散生します。

４．カボチャ斑点病

葉脈に囲まれた角型、黒色の小病斑を生じます。病斑上には暗色の分生子柄が束生（右下方）し、無色、ムチ状の分生子が形成されます。ウリ科作物の間で相互に伝染します。